



## I 大学の理念と基本方針

- 2 学長メッセージ
- 3 教育理念（現代の志塾）  
建学の精神  
大学の基本理念  
多摩大学沿革

## II 教育・研究および社会連携

- 4 防災拠点化構想  
産学官民連携
- 5 ゼミ教育（4年間ゼミ）  
寺島実郎監修リレー講座
- 6 特色ある取り組み  
就業支援プログラム
- 7 各学部の教育体系
- 8 大学院・研究機関

## III 法人・関連校の概要

- 9 学校法人田村学園
- 10 関連校情報



# 21世紀を主体的に生きる 人材を育成する

多摩大学は、開学以来の伝統である“実学”を柱にゼミを中心とした多彩な教授陣が人間を育てる大学です。

学長主宰のインターゼミ（社会工学研究会）では、両学部生、社会人大学院生と13名の教授陣で文献研究とフィールドワークによる「課題解決型のグループ研究」に取り組みます。学生・一般市民を対象とした学長監修リレー講座「現代世界解析講座」では、各分野における第一線の専門家を招き、現代世界を深く理解し、時代認識を的確にする講座を19年に亘り開講し、のべ30万人超の参加者を得ています。

アジアダイナミズムと正面から向き合い、デジタル・トランスフォーメーション時代に活躍できる、また100歳人生をも見据え、仕事のみならず、人間としての生き方・思想・哲学・宗教・価値観を含めて、どのように人生を生きていくのかを体系的に考えさせ「社会人として生き抜く知力」を身に付けた人材を、世の中に送り出します。

世界を見渡し転換期を生き抜く「全体知」を身に付け、21世紀を主体的に生きる人間を創造する実績を目指します。

学長  
寺島 実郎



<https://www.tama.ac.jp/guide/greeting.html>

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学  
研究科修士課程修了後、三井物産入社。  
米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産戦  
略研究所所長、三井物産常務執行役員、早稲田  
大学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任  
し、現在、(一財)日本総合研究所会長を務める  
ほか、文部科学省 日中韓大学間交流・連携推進  
会議委員、経済産業省 資源エネルギー庁総合資  
源エネルギー調査会基本政策分科会委員、国土  
交通省 国土審議会計画推進部会委員等、国の審  
議会委員も多数歴任。1994年石橋湛山賞受賞。  
2010年4月早稲田大学名誉博士学位。

近著に『世界認識の再構築 17世紀オランダから  
の全体知』（岩波書店）。その他に、『21世紀未  
来圏 日本再生の構想 全体知と時代認識』（岩  
波書店）、『ダビデの星を見つめて 体験的ユダ  
ヤ・ネットワーク論』（NHK出版）、『寺島実郎監  
修』全47都道府県幸福度ランキング2024年版』（  
日総研出版）。

『人間と宗教 あるいは日本人の心の基軸』（岩  
波書店）、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和  
の本質的課題』（岩波書店）、『（佐高信共著）戦後  
日本を生きた世代は何を残すべきか われらの持  
つべき視界と覚悟』（河出書房新社）、『ジェロ  
ントロジー宣言 「知の再武装」で100歳人生を生  
き抜く』（NHK出版新書）、『ひとはなぜ戦争を  
するのか 脳力のレッスンV』（岩波書店）、『ユ  
ニオンジャックの矢 大英帝国のネットワーク  
戦略』（NHK出版）、『シルバー・デモクラシー  
戦後世代の覚悟と責任』（岩波新書）。

『寺島実郎 中東・エネルギー・地政学—全体  
知への体験的接近』（東洋経済新報社）、『二十  
世紀と格闘した先人たち—一九〇〇年 アジア・  
アメリカの興隆』（新潮社）、『何のために働くの  
か—自分を創る生き方』（文春新書）、『大中華圏  
ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る』（  
NHK出版）等、著書多数。



# 多摩大学の理念

## 現代の志塾＝教育理念

多摩大学は、基本理念に従い開学以来「実学」を標榜し、時代の最先端を走る産業界で活躍した人材を教壇へ多数登用する等、「実学教育」を一貫して実践してきました。開学20周年の平成21(2009)年を機に、この「実学教育」をさらに深化させるため、新しい時代の実学を「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高めること」と再定義し、本学の教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念としました。

## 建学の精神

田村学園は、昭和12(1937)年10月に田村國雄が建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎として目黒区下目黒の地に社会に貢献できる女子実業人を養成することを目的として「目黒商業女学校」を設立し、幼稚園及び系列の短期大学と共に女子教育を行ってきました。

その後の教育体制を整えるため、高等教育としては、平成元(1989)年に多摩大学(以下「本学」という)を設置し、中等教育は進学ニーズに合わせて男女共学の中高一貫教育への改組等を行い、現在では、多摩大学・大学院、多摩大学目黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校、目黒幼稚園・大森双葉幼稚園・三宿さくら幼稚園まで、大学・大学院を頂点として幼稚園、中学校・高等学校・大学・大学院の一貫教育としての体制が整っています。

本学園は、その目的を「豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成すること」と寄附行為第3条で規定しています。

## 大学の基本理念

建学の精神・学園の目的を踏まえ、平成元(1989)年大学開学時に本学の基本理念を「国際性」、「学際性」、「実際性」の3つのキーワードとしました。

そして、国際化、情報化社会の進展に即応して、世界の中で大きな役割を担い、日本の将来を背負うという自覚に基づいた強い実行力と広い視野を持ち自らを厳しく律することができる高い倫理観のある人材を育成することに尽力しています。

### 【国際性】

グローバル社会の一員として、積極的な役割を果たす人材を育成する。

### 【学際性】

行き過ぎた専門化の弊害を是正するため、学際的な研究・教育への取組みを重視する。

### 【実際性】

大学に対する「象牙の塔」批判を克服すべく、「社会に通用する大学」を標榜する。

## 多摩大学 沿革 <https://www.tama.ac.jp/guide/history/>

平成元年(1989)	4月	東京都多摩市に多摩大学を設置(設置者学校法人田村学園)初代学長に野田一夫就任 経営情報学部経営情報学科を開設 総合研究所を開設
平成5年(1993)	4月	大学院経営情報学研究科修士課程を設置
平成7年(1995)	4月	2代目学長に中村秀一就任 大学院経営情報学研究科博士課程を設置
	9月	3代目学長にグレゴリークラーク就任
平成13年(2001)	9月	4代目学長に中谷巖就任 メディア&インフォメーション・センターを開設
平成16年(2004)	1月	情報社会学研究所を開設
	4月	研究開発機構を開設
平成17年(2005)	1月	統合リスクマネジメント研究所を開設
平成18年(2006)	4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科を開設
平成19年(2007)	4月	グローバルスタディーズ学部グローバルスタディーズ学科を開設(神奈川県藤沢市)
平成20年(2008)	4月	学長代行に野田一夫就任
平成21年(2009)	4月	5代目学長に寺島英郎就任 九段サテライトを開設
	10月	地域活性化マネジメントセンターを開設 国際交流センターを開設
平成25年(2013)	3月	統合リスクマネジメント研究所を医療・介護ソリューション研究所へ改組
平成27年(2015)	4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科を事業構想学科に改組
平成28年(2016)	6月	ルール形成戦略研究所を開設
	4月	メディア&インフォメーション・センターを改組し、アクティブ・ラーニング支援センターを開設 研究活性化センターを開設
平成30年(2018)	6月	社会的投資研究所を開設
平成31年(2019)	4月	アクティブ・ラーニング支援センターをアクティブ・ラーニングセンターへ改組 地域活性化マネジメントセンターを産官学民連携センターへ改組
令和3年(2021)	4月	志入試センターを入試センターに名称変更
令和5年(2023)	4月	就業支援戦略室開設
令和6年(2024)	4月	アクティブ・ラーニングセンターを教育・研究推進センターへ改組 社会的投資研究所をサステナビリティ経営研究所に名称変更
令和7年(2025)	5月	ルール形成戦略研究所を閉鎖

# 多摩大学 防災拠点化構想の実装

## — 災害発生時における多摩市地域内輸送拠点としての活用 —

多摩大学では、災害発生時に多摩市の防災拠点の一翼を担う施設として大学を活用する「防災拠点化構想」を推進しています。

本学の施設は、多摩市において、他自治体等から届く支援物資の受け取り・仕分け・市内各所への配送を担う地域内輸送拠点として活用が可能です。

多摩市をはじめとする自治体や関係機関と連携し、これからも地域の防災力向上と災害からの迅速な復旧に貢献します。

水	電力	避難所	その他
<p>多摩大学に隣接する「応急給水拠点」</p>  <p>多摩大学の敷地に隣接する多摩市の「応急給水拠点」における、大地震時の、安心・安全な飲料水の配給</p>	<p>再生可能エネルギーを活用した電力の蓄電および、災害時における避難者への電力提供</p>  <p>太陽光パネル 太陽光発電システム</p>  <p>蓄電池 EVバス</p>	<p>多摩市の「指定緊急避難場所」</p>  <p>食料・飲料水などの提供は、多摩市が担当。本学近隣を通る尾根幹線の活用により、多摩市の備蓄物資を滞りなく運搬できる体制。</p>	<p>①防災対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●災害に強いサーバーの確保</li> <li>●発電用ソーラーパネルの設置</li> <li>●災害時の調理用品とかまどの設置</li> </ul> <p>②防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「防災学概論」等の科目設置</li> </ul> 

# 産官学民連携

多摩大学は、教育や研究を通じて、実践的な課題解決力を育むことを目指し、地域とのつながりを大切にしながら、社会に新たな価値を生み出す取り組みを行っています。また、現場に寄り添い、産業界・行政・教育機関、そして市民の皆さまという多様な機関と連携しながら、実社会の課題解決に努めています。

## 主な連携事業

- ・社会問題の分析や解決提案、教育手法の開発
- ・地域コミュニティや団体など多様な組織とのネットワークを形成
- ・企業や地方自治体との課題解決型の共同研究・受託研究
- ・魅力あるまちづくりのためのプロジェクト創出 など

### 多摩大学の主な連携協定先一覧

連携協定先	協定締結日
多摩市・多摩信用金庫	2010年10月26日
藤沢市・藤沢市観光協会	2015年11月 4日
名桜大学	2016年 1月 5日
帝塚山大学	2016年 3月 1日
多摩市	2016年 8月31日
昭島市	2018年 4月10日
城南信用金庫(よい仕事おこしフェア実行委員会)	2019年10月18日
多摩信用金庫	2020年10月28日
京王観光株式会社	2020年10月31日
寒川町観光協会	2021年 6月10日
TAC株式会社	2022年 3月 9日
小田急電鉄株式会社・小田急不動産株式会社	2022年 4月14日
奥多摩町	2022年 9月22日
鎌倉市・鎌倉市観光協会	2022年11月 1日
パーソルテンプスタッフ株式会社	2024年 7月25日
アイサンテクノロジー株式会社	2025年 1月 9日
大月短期大学	2025年10月 6日



多摩市・稲城市・八王子市・日野市・町田市・京王観光株式会社との連携【タマリズムマッチング会】



奥多摩町との連携【奥多摩AUBAコーヒーショップ】



小田急不動産株式会社との連携【マチカドこども大学®】



藤沢市との連携【ぶらりごみ拾い】

# ゼミ力の多摩大 [4年間ゼミ]

多摩大学ではゼミ教育を重視し、1年次から4年次まで一貫したゼミを開講しています。

最前線の事例を学びに取り入れながら、課題を発見し、解決へ導く力を養い、社会の課題解決を担う人材を育成します。

## インターゼミ (社会工学研究会)

対象:両学部1~4年次および大学院生

インターゼミ (社会工学研究会) は、毎週土曜日に九段下の多摩大学九段サテライトで開講される、寺島実郎学長直轄のゼミナールです。経営情報学部・グローバルスタディーズ学部の在学学生と大学院生約50名が4チームに分かれ、文献研究とフィールドワークを通じて年間課題に取り組みます。教員と学生が世代を超えて共同研究を行い、九段の史跡や神田神保町の古書文化に触れながら、課題解決力を鍛える実践的な学びの場です。



## プレゼミ

対象:両学部1年次

プレゼミは、講義に加えて、議論や発表を取り入れた学習スタイルを大切にしています。新入生が大学での学びに円滑に取り組めるよう、考える力や伝える力を養い、専門性の高いゼミへと進むための土台を築く導入教育です。

## ホームゼミ

対象:経営情報学部2~4年次

専門ゼミでは、学生が関心のあるテーマを選び、3年間かけて研究を深めます。担当教員は、その分野の専門家として、研究指導に加え、卒業後の進路やキャリア形成についても丁寧にアドバイスをを行います。

対象:グローバルスタディーズ学部3~4年次

関心のあるテーマについて調査・研究を重ね、発表・討議を通して理解を深めます。4年次には卒業論文に取り組み、理論的な文章構成力や問題解決力を養います。

# 寺島実郎監修リレー講座 「現代世界解析講座」

世界各地の現況、海外から見た日本、国内の諸問題を、グローバル、ローカル、あるいは産官学と多角的な視点から取り上げることで、現代社会が抱えている問題意識を提起し、時代認識を深めます。

2008年から寺島実郎学長監修により各界の碩学を講師として招き、半期12回、年間24回、リレー形式にて講座を開講しています。地域住民約300名、学生約300名が受講し、湘南キャンパスではライブ配信、東京都心サテライトでは録画放映による受講が可能です。会場での受講に加え、自宅や地方、海外からのオンライン受講者も年々増加しており、19年間の参加者数は、延べ30万人を超えています。



寺島実郎学長登壇の様子



専用サイト▼



# 特色ある取り組み

## 経営情報学部 ジョブ型人材育成コース

ジョブ型人材育成コースは、高い専門技能を身につけ、即戦力として活躍できる力を養うとともに、就業後も学び直しを重ねながら自らを研鑽し続ける素養を持つ人材を育成する選抜コースです。

本コースでは、特定分野の専門教員によるゼミや授業に参加し、1学年約20名の学生を5名の教員が担当する少人数体制のもと、丁寧な指導を通して専門性を深めます。

本コースでの学びを通じて、産業や企業の課題解決に直接的に貢献するとともに、社会の変化にシなやかに対応できる人材の育成を目指します。

先端的マーケティング心理コース

実社会で競争力のある人材になる

実践的ビジネスエンジニアリングコース

有能な実務遂行者や経営幹部へと成長する人材になる

## グローバルスタディーズ学部

### 特別専修プログラム Career Honors Program (通称: CHP)

グローバルスタディーズ学部の人材育成のモデルとなる学生を育成するため2022年より始動した特別専修プログラムです。目指すキャリアパスに沿って合理的に組み立てられたカリキュラムから、3つの特別育成プログラムで構成されています。



グローバルキャリア育成プログラム

グローバルビジネスや国際社会での活躍を目指す

高度観光・サービス人材育成プログラム

高度観光・サービス産業の将来のエグゼクティブリーダーを目指す

中・高英語教員育成プログラム

自らグローバルな視野を有し、生徒をグローバル人材に育てる中・高英語教員を目指す

# 『就業』支援プログラム 人生を生き抜く力を育む

## 『就業』支援プログラムの概要

多摩大学では、単に企業への就職を目指すのではなく、価値ある仕事に出会い、人間としての成長を実感しながら、人生を通じて取り組める仕事に『就業』できる力を育むことを重視しています。そのため、本学では在学中から卒業後までを視野に入れた継続的な支援体制として『就業支援戦略室』を設置し、学生一人ひとりに寄り添った多様な支援プログラムを展開しています。



<sup>\*1</sup> 寺島実郎学長が直接指導。毎週土曜開講。テーマを定め、グループごとに1年をかけた論文を執筆。  
<sup>\*2</sup> 選抜コースで、高い専門技能を持ち即戦力として活躍でき、かつ就業後も成長し続ける素養を持つ人材を育成。  
<sup>\*3</sup> 基礎学力対策のSPI講座や公務員試験対策専門講座を開講。書類や面接対策指導も徹底。

<sup>\*4</sup> 経営情報学部情報学科では、高校の「情報」科目の教員免許、グローバルスタディーズ学部では中高英語教員。  
<sup>\*5</sup> 社会問題解決の実学教育を、良質な体験型のアクティブラーニングプログラムを通じて提供。

# 経営情報学部

School of Management and Information Sciences

データサイエンスや情報デザインを活用してDX社会に貢献する人材を育てる

## 4年間ゼミによる“ゼミ中心の学び”で問題解決力が向上

1年次は「プレゼミ」、2年次から4年次は「ホームゼミ」からなる必修科目で構成され、少人数制により、専門性と問題解決力を高めることができます。

## 基礎科目・専門科目の充実による“体系的な学修”

1年次は基礎科目を中心に、2年次以降は学科毎に、専門的な分野「系」の科目を体系的に履修・修得します。

## “ジョブ型人材育成コース” 「先端的マーケティング心理コース」 「実践的ビジネスエンジニアリングコース」

卒業後即戦力として活躍できる高い専門技術を持ち、就業後も常に学び直しをして、自らを研鑽する素養を持つ人材を育成する選抜コースです。

### 経営情報学部3つの柱

- 1 最前線事例**  
最先端の人材による教育を通して、未来を見通す力を育む。
- 2 基礎**  
マネジメント、データサイエンスなど産業社会に必要な「経営」「情報」の基礎を広く学ぶ。
- 3 専門**  
産業社会との豊富な交流により専門性、実践力を獲得しDX推進社会やグローバル・地域社会に貢献できる人材へと育む。

### 学科の特色

- 経営情報学科**  
情報技術（データ分析・データマーケティング・プログラミング・Webデザインなど）について学び、産業社会における情報技術による社会変革（DX）に貢献する。
- 事業構想学科**  
経営学、マネジメントを現場で通用する実学として学び、グローバルやローカルの世界で活躍できる力を身につける。

### 将来へつながる学びの体系

経営情報学科	<b>情報デザイン</b> 人々に情報を発信したい	<b>データ分析</b> 社会の課題を解決したい	<b>開発（プログラミング）</b> DXの発展に貢献したい
	・情報の活用法を身につけたい ・情報を分かりやすく提供したい ・制作物を世に出したい	・データマーケティングを産業に活かしたい ・既存ビジネスを見直したい ・新ビジネス戦略を立てたい	・効率的に働きたい ・企業を成長させたい ・便利な生活を実現させたい
事業構想学科	<b>アジア・アフリカ</b> 広く世界で活躍したい	<b>地域</b> 地域の人を幸せにしたい	<b>経営</b> 自分で道を切り開きたい
	・諸外国で活躍したい ・他国との比較により日本の実情を見つめ直したい	・地域の産業を盛り上げたい ・地域の雇用を生み出したい ・地域の健康を支えたい	・企業を分析したい ・経営トレンドを見極めたい ・自分で会社を立ち上げたい

# 大学院 経営情報学研究科

TAMA GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS

「経営情報学研究科の志」現実を変える力「イノベーターシップ」が身に付く

多摩大学大学院は、イノベーション分野で屈指の強みを持ち、実践に徹底的にこだわった【超実学志向MBA】のビジネススクールです。MBAの基本理論からイノベーションメソッドまでを統合的、横断的に学べます。【少人数クラス】でインタラクティブに双方向授業を展開するので、本物の実践力が身に付きます。また、本学の強みであるデザイン思考、ビジネスモデル、シナリオプランニング、デジタル戦略など経営の現場ですぐに応用できるイノベーションを起こすために必要なセオリー、実践スキルをその世界の第一人者から直接学べます。

イノベーターシップ  
II  
マネジメント、リーダーシップを超える  
第三の力

### 8つの特長+α

- 特長1. 第一線の実務家講師陣から【生きた実践知】を学べる
- 特長2. 【少人数クラス】だから、深く、濃く学べる
- 特長3. 高い講義満足度評価と【キャリアと人生の飛躍】につながる学び
- 特長4. リーダーシップを超えた【イノベーターシップ】を修得できる
- 特長5. 通いやすさ抜群の「品川キャンパス」とオンラインの【ハイブリッド講義】
- 特長6. 日本発の世界的なイノベーション論「知識創造理論」と実践スキルをマスターできる
- 特長7. リーダーに必須のリベラルアーツ、教養を学べる
- 特長8. 多摩大学大学院だけで学べるビジネス最先端の専門スキルと、独自の「専門認定」を得られる
- +α. 2年間で最大128万円の学費サポートが受けられる「専門実践教育訓練給付金」制度と独自のスカラシップ（特待生）制度



# グローバルスタディーズ学部

School of Global Studies

グローバルな問題を解決でき、グローバルな舞台で活躍できる人材を育てる

## グローバル時代に求められる力を育てる学び

語学力と幅広い教養を基盤に、ホスピタリティ産業・国際ビジネス・英語教育などの分野で「グローバル（グローバル＋ローカル）」に活躍できる人材を育成します。

## 海外留学と多文化教育

海外留学を積極的に支援し、多様な留学プログラムを提供しています。海外出身の学生や教職員も多く、日常的に語学力と異文化理解を育む環境が整っています。

## Career Honors Program 「特別専修プログラム」

特別専修プログラムは、国際ビジネス・観光・英語教育分野において高度なレベルで活躍できる人材育成を目的としています。

### グローバルスタディーズ学部3つの柱

- 1 英語集中教育（AEP）**  
「話す・聞く・書く・読む」をバランスよく学び、思考力と世界で通じる英語力を身につける。
- 2 基礎教育科目**  
多様な見方・考え方の理解と、幅広い教養と確かな基礎力を身につける。
- 3 専門教育科目**  
専門分野における理論と実践を身につけることで、世界に通用する知性を磨く。

### コースの特色

- ホスピタリティ・マネジメントコース**  
サービス産業や観光産業で活躍するための知力と人間力を養うコース。観光学、経営学など、グローバルな視点から「ホスピタリティ（他者への思いやり）」と「マネジメント（経営）」を学ぶ。
- 国際教養コース**  
国際ビジネスや教育分野で活躍するための知力と人間力を養うコース。国際関係、経済学、情報学など、グローバルな視点と実践的なビジネス知識を学ぶ。

### 将来へつながる学びの体系

ホスピタリティ・マネジメントコース	<b>ホスピタリティ・マネジメント</b> ホスピタリティとグローバルな視野を身につけ、サービス産業で活躍できる人材へ	国際教養 グローバルな視点と実践的なビジネス知識を学び、日本と世界をつなぐ人材へ
	<b>日本と世界をつなぎたい</b> ・外国人観光客のニーズに応えたい ・英語によるコミュニケーションがしたい ・国境・文化・言語を超えて移動する人々を支援したい	

# 研究機関

## 多摩大学研究開発機構

多摩大学研究開発機構は、社会との連携が不可欠となった複合的な研究教育環境に対応して、学内の研究活動の有機的統合を図りつつ、学外との高度な共同研究・教育を実現し、産官学の研究交流、教育交流の成果を大きくあげることを目的としています。



多摩大学総合研究所  
所長 松本 祐一  
MATSUMOTO Yuichi  
<https://tmuri.jp/>

人口減少や情報化が進む中、総合研究所は多摩大学の理念に基づき、未来を創る実践者を支援しています。研究・教育活動や産学連携を通じ、社会・地域課題の解決と発展に寄与することを目指しています。



医療・介護ソリューション研究所  
所長 佐々木 弘明  
SASAKI Hiroaki  
<https://www.tama-mli.com/>

近年叫ばれる医療や介護をめぐる諸問題に対して、経営学や経済学、あるいは前研究所からのノウハウであるリスクマネジメントといった手法を用いて解決手段を探ることを目的とし、活動しています。



情報社会学研究所  
所長 公文 俊平  
KUMON Shumpei  
<https://www.ni.tama.ac.jp/>

本研究所は情報社会学Infosociomics について研究し、受託事業に創造的な問題解決を提供しています。おもな研究テーマは、情報通信産業の動向調査、AIとインターネット・セキュリティ、データ解析や確率論です。



サステナビリティ経営研究所  
所長 堀内 勉  
HORIUCHI Tsutomu  
<https://www.tama-csm.org/>

現在の資本主義社会は、地球環境問題を始めた持続可能性（サステナビリティ）という深刻な課題に直面しています。社会や企業の持続可能性に焦点を当てた調査・研究などに取り組むシンクタンクとして、政策提言や普及・啓発活動を行っています。

# 学校法人田村学園

田村学園は学園建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎とし、生徒、学生一人ひとりの豊かな個性を伸ばし、国際感覚ある、心豊かな人材の育成を目的としています。



学校法人田村学園理事長  
**田村 嘉浩**

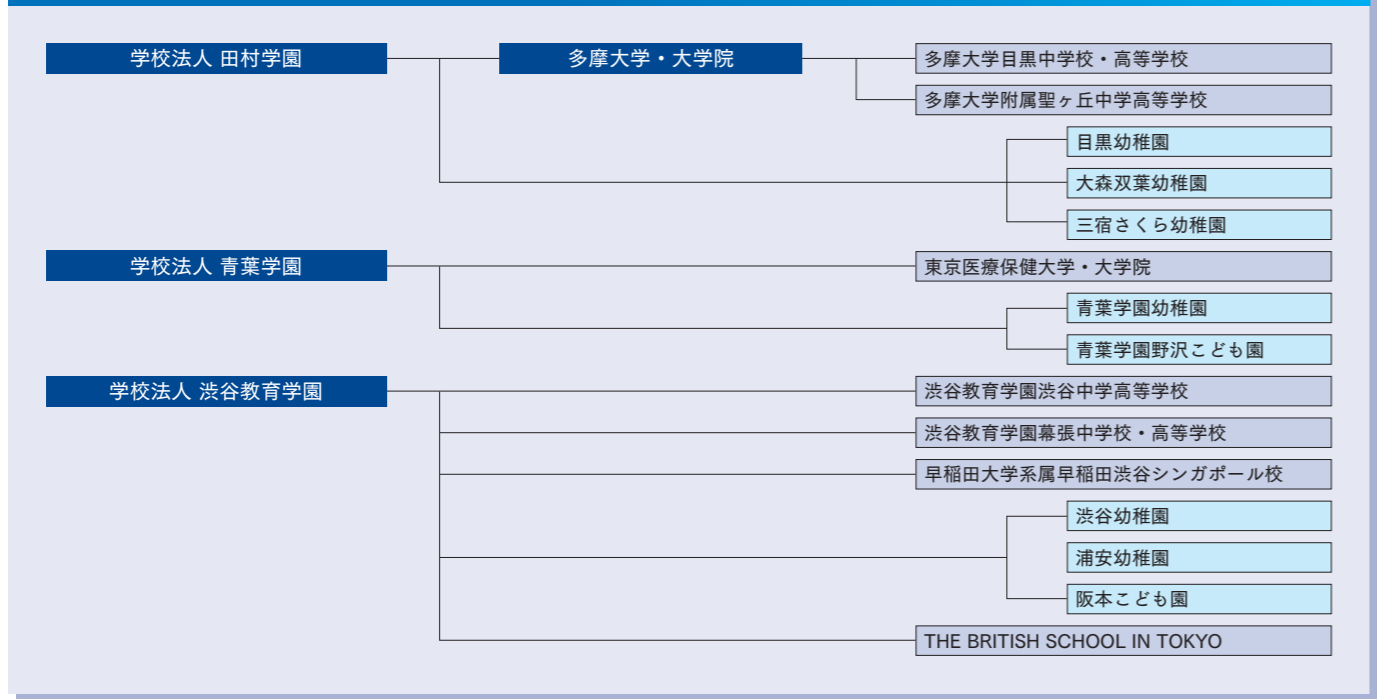
1961年東京生れ。東京大学法学部卒業後、1984年通商産業省（現在の経済産業省）に入省。スタンフォード大学アジア太平洋研究所及びモスクワ国際関係大学への留学、海外勤務、地方勤務などを経験。日本社会を覆う停滞感と新興諸国の活力溢れる姿を目の当たりにし、教育、人材育成の重要性を痛感し転職を決意。2003年7月、在ロシア日本国大使館参事官の勤務からの帰国と同時に田村学園常務理事に就任。2004年4月、多摩大学目黒中学・高等学校長、2015年4月、田村学園理事長に就任。

田村学園は、「社会の進展に貢献できる自立した有為な人材の育成」を目指し1937年に創設された学園です。当初は女子実業人教育からスタートしましたが、その後の時代の変化の中で順次発展を遂げ、現在では多摩大学・大学院を頂点に男女共学の中高一貫校や幼稚園を備えた一貫教育の体制が整った学園へと変貌を遂げております。

今あらためて、多摩大学のこれまでの歩みを振り返ってみますと、常にさまざまな改革に挑戦し、大学教育の在り方の理想を徹底して探求してきた姿がはっきりと見て取れます。

現在、我が国を取り巻く国際環境は大きな変動の真ただ中にあります。また、情報技術をはじめ技術革新のスピードも速く、社会構造の変化も大変激しい時代です。こうした中、人材育成に関して大学が果たすべき役割は、従来にも増して大きなものになっています。本学としては、今後とも「新しい時代に活躍できる人材」の育成を目指して、これまでの大学教育の改革者としての伝統を忘れずに、「教育の場」として更なる進化を続けていけるよう努めてまいります。

## 田村学園グループ組織図（関連校）



# 関連校情報

田村学園は、多摩大学を中核に、大学院、多摩大学目黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校、目黒・大森双葉・三宿さくらの3幼稚園からなる一貫教育体制を有する学園です。

社会に貢献できる女子実業人を養成することを目的として、昭和12年の目黒商業女学校の設立を起点とし、社会の進学ニーズに応じて共学化や中高一貫教育を進めてきました。現在では、多摩大学を頂点として、幼稚園から大学まで体系的な教育環境を整えています。

## 多摩大学目黒中学校・高等学校

進学重視の中高6年一貫校。高校2年からは文系・理系のコース制となります。各コースでは、志望大学への全員合格を目指し、きめ細かい指導と独自のカリキュラムを実施し、実力アップをはかっています。マルチメディア時代にふさわしい教育内容の充実・向上を目指しています。横浜のセミナーハウスには研修室を備えた体育館、広いグラウンドが整備され、野球部、サッカー部等の生徒が汗を流しています。



多摩大学目黒中学校・高等学校

## 多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

中学校では、英語・数学・国語を中心に基礎学力の定着を図るとともに、理科では充実した実験設備を活用した実験を多く行い、社会では社会科学として実際に校外へ出かけるなど、生徒の興味・関心を育てる学習を展開しています。本物に触れる体験を重視した教育を通して、学ぶ意欲と確かな理解を養います。こうした学びを土台として、高校では高校1・2年次を中心に探究活動に取り組み、多摩市と連携したゼミ形式の学習を通して、地域の課題に向き合い、考え、発信する力を育て、大学での学びへとつなげています。



多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

## 目黒・大森双葉・三宿さくら幼稚園

田村学園には3つの幼稚園がありますが、それぞれ地域社会の要望にこたえ、恵まれた環境のもと、一人ひとりの個性を伸ばす保育を行っています。

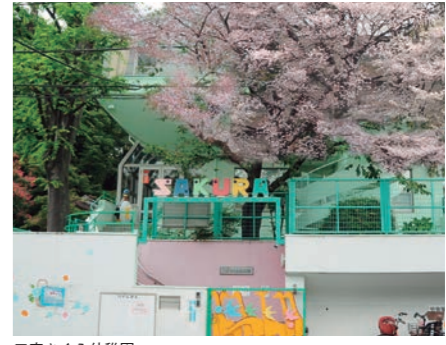
各幼稚園には心身の健やかな成長を助ける温水プールでの水泳指導があり、楽しみながら学ぶ外国人による英会話クラス、保護者を対象とした系列大学の専門家による教育相談などが行われています。



目黒幼稚園



大森双葉幼稚園



三宿さくら幼稚園

**「この輝ける日々よ」**

学園歌

作詞…阿久悠  
作曲…三木たかし

心に翼を見つけた日から  
明日はまぶしい光にあふれ  
翔び立つ夢を語るのも  
彼方の世界を想うのも  
今 あればこそ  
今 生きてこそ  
この輝ける日々よ いつまでも

瞳に希望を映した日から  
時代は魅惑の友たちとなり  
流れる風に急ぐのも  
移ろう季節に迷うのも  
今 あればこそ  
今 生きてこそ  
この輝ける日々よ いつまでも

青春 生きてこそ  
青春 生きてこそ  
この輝ける日々よ いつまでも

青春 あればこそ  
青春 生きてこそ  
この輝ける日々よ いつまでも

この輝ける日々よ いつまでも